

ある日の午後・・・

僕はコンビニの
帰り道で



幸運の変態

緒方ごう

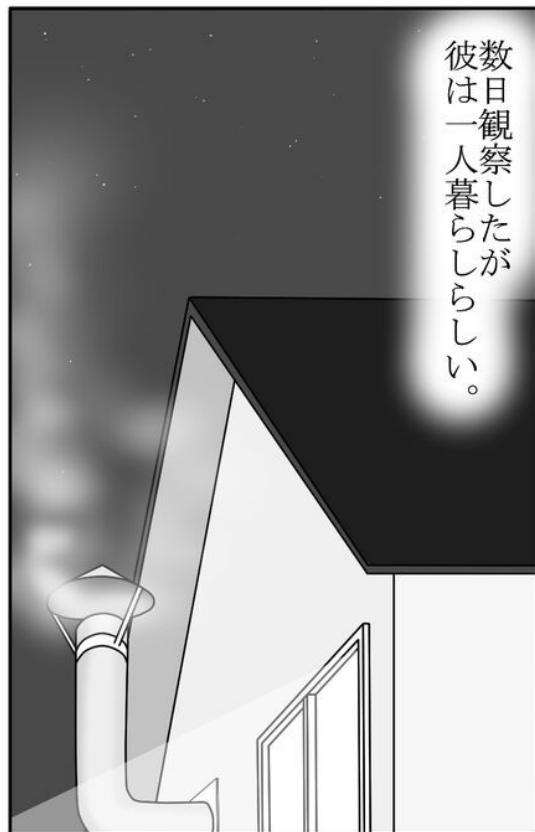


かわい
い男の
子を見
つけた。





規則正しく生活し、
決まった時間に
お風呂に入った。

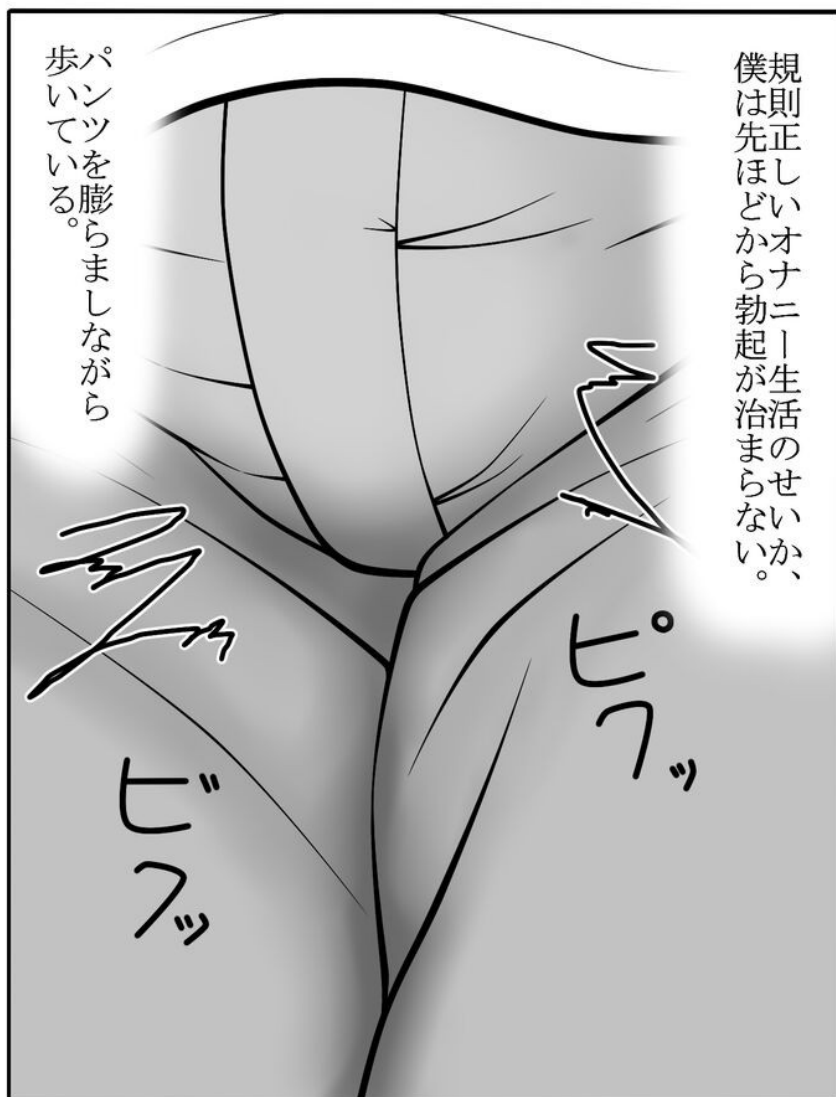


数日観察したが
彼は一人暮らしらしい。



僕は決まった時間
にオナニーする
ようになった。

はあ
はあ
はあ



興奮は治まらないまま
家に着きそうだった。
僕は何気に
彼の家を覗く。

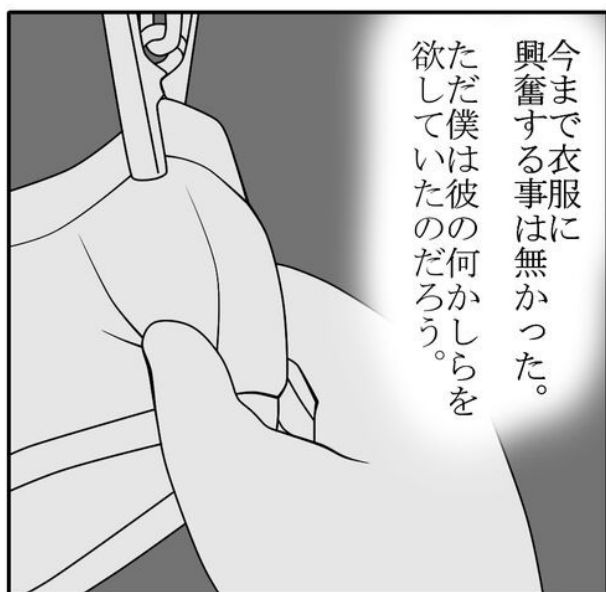


僕は無意識の内に
知っていたのだろう。

土曜日の夜、
彼は洗濯物を
干していたま
まにしている



今まで衣服に
興奮する事は無かった。
ただ僕は彼の何かしら
を欲していたのだろう。

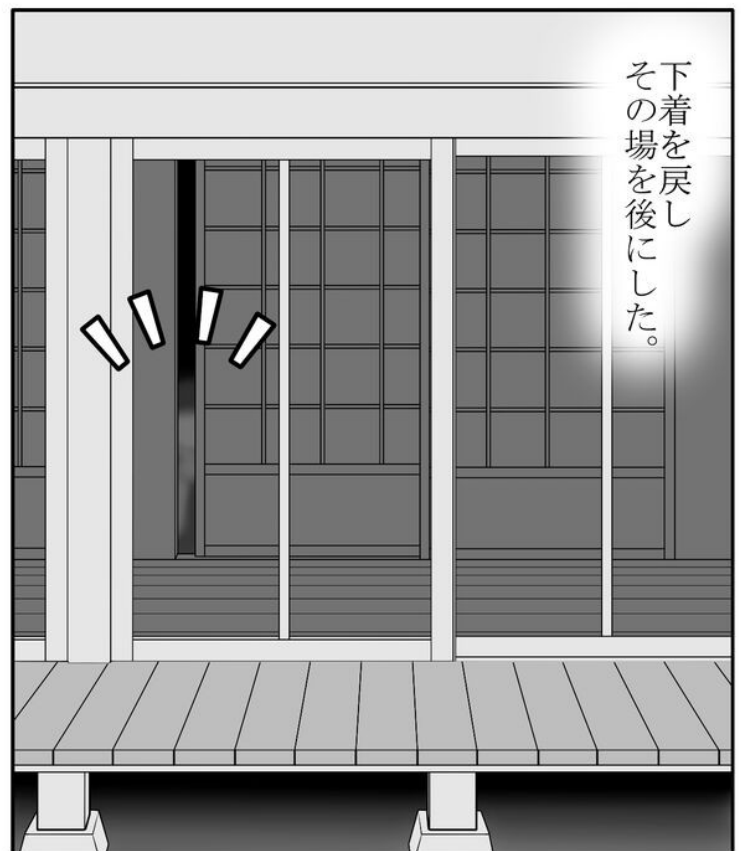
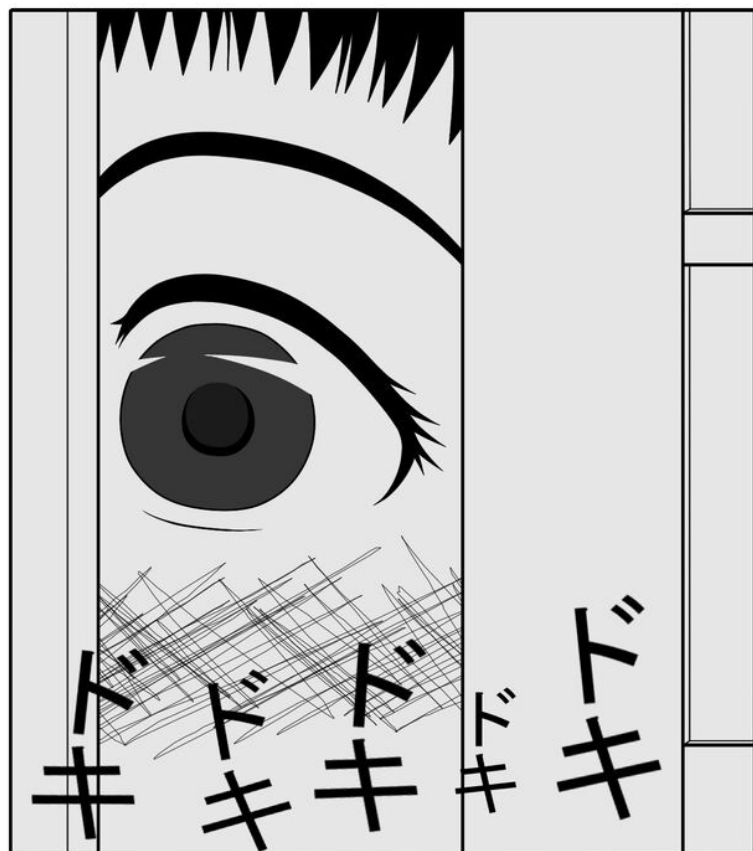


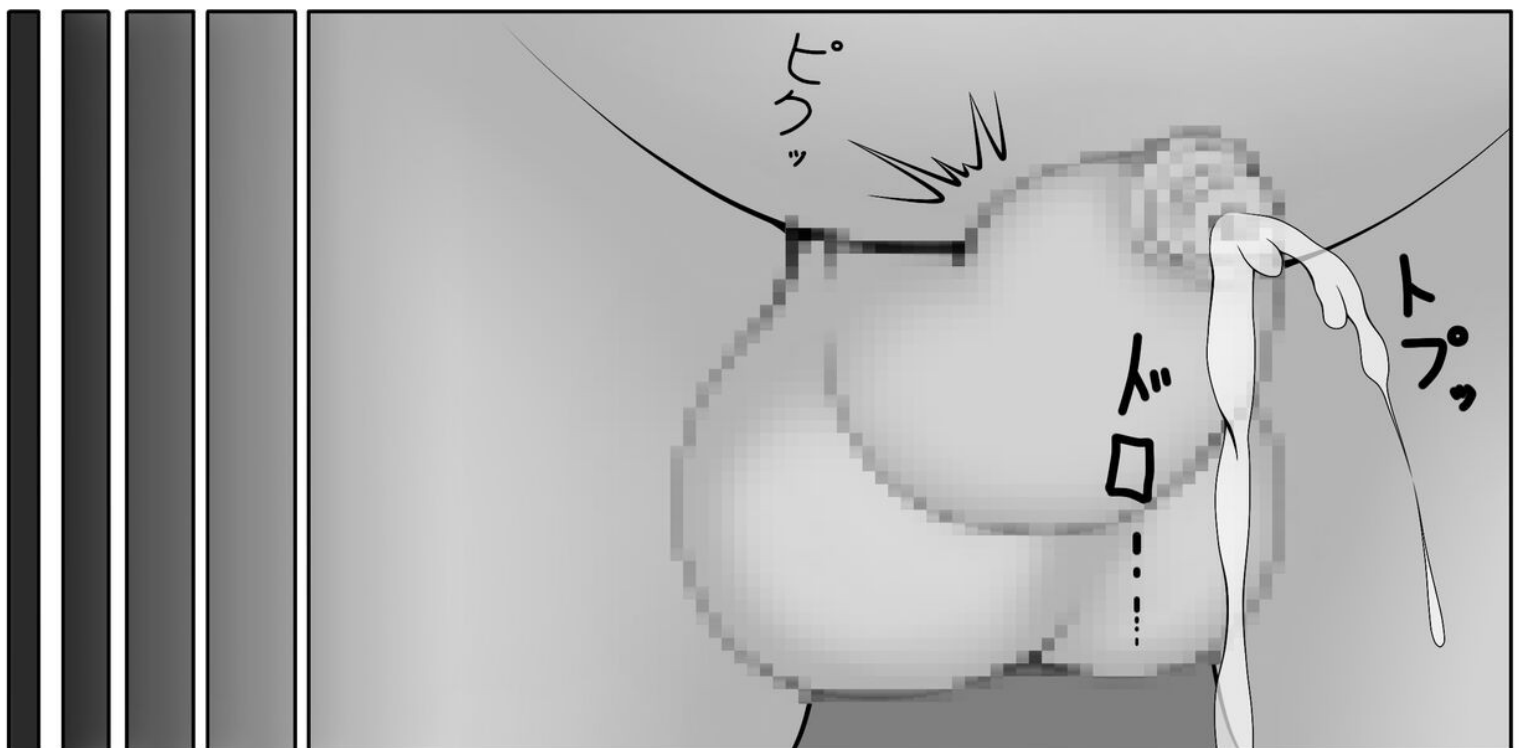
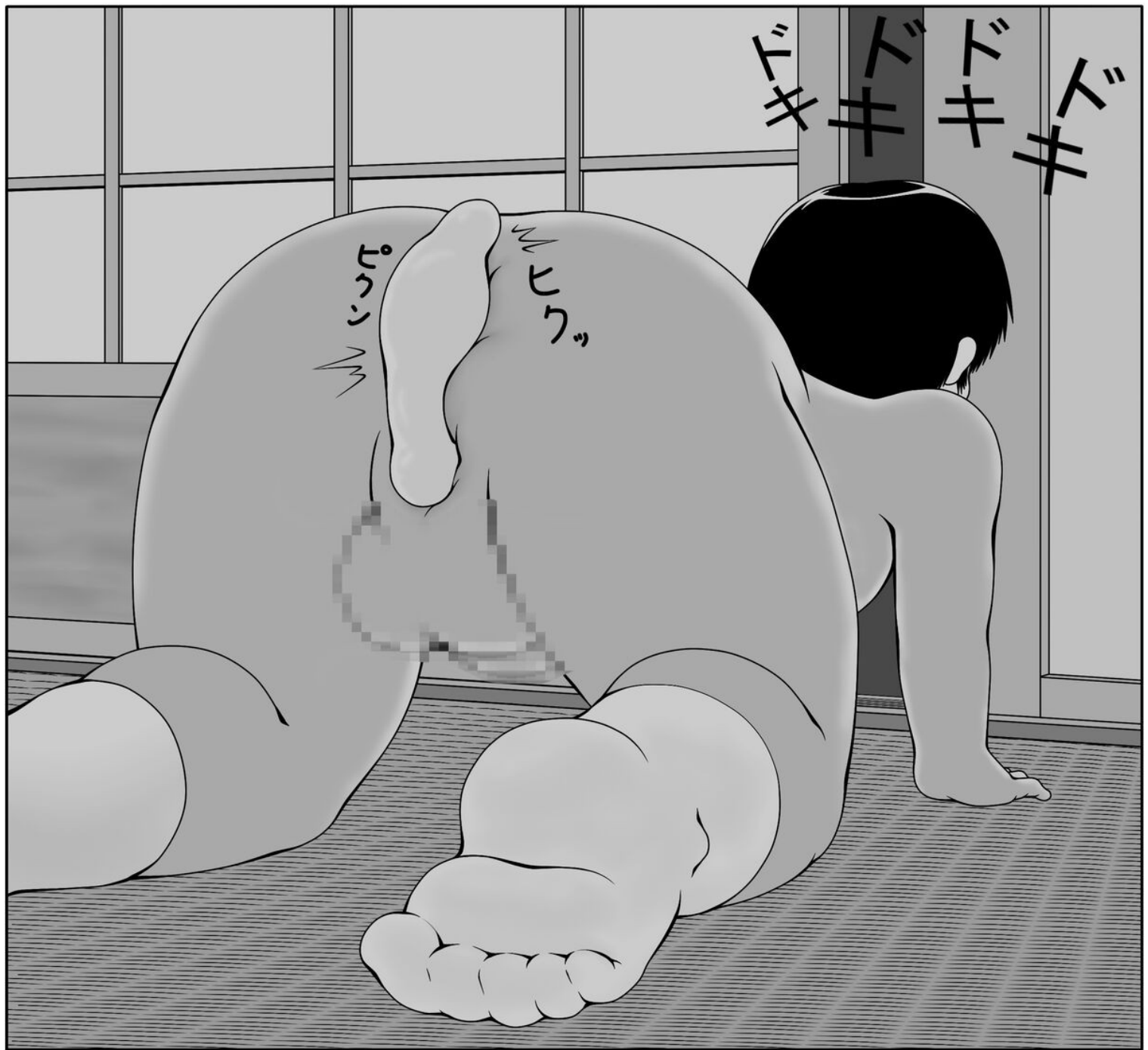
彼の下着を手にした僕は
高揚感に包まれ僕は
自然と笑みがこぼれた。



僕は我慢出来ずに
その場でオナニーを始めた。
彼のプライベートな空間で
彼の下着を犯した。







その日から、
毎週土曜日は、
彼の事を想い・・・

彼の庭で、
彼の下着を犯し・・・

彼の傍で
大量の精液を出した。

その行為は次第に
慣れて行き・・・



気が付けた。大胆な事を
してんた。

ん
ふ
ん
ふ
〜

あの・・・

ビ
クッ

使ぼ
っ
て
く
だ
さ
い
...

むに〜

ク
イ

グ
ッ







ん(っ)!!

ズプッ



んはっ!

太いっ!

いきなり!

ずぶっ

ぐぼっ

んひっ!

奥まで!!

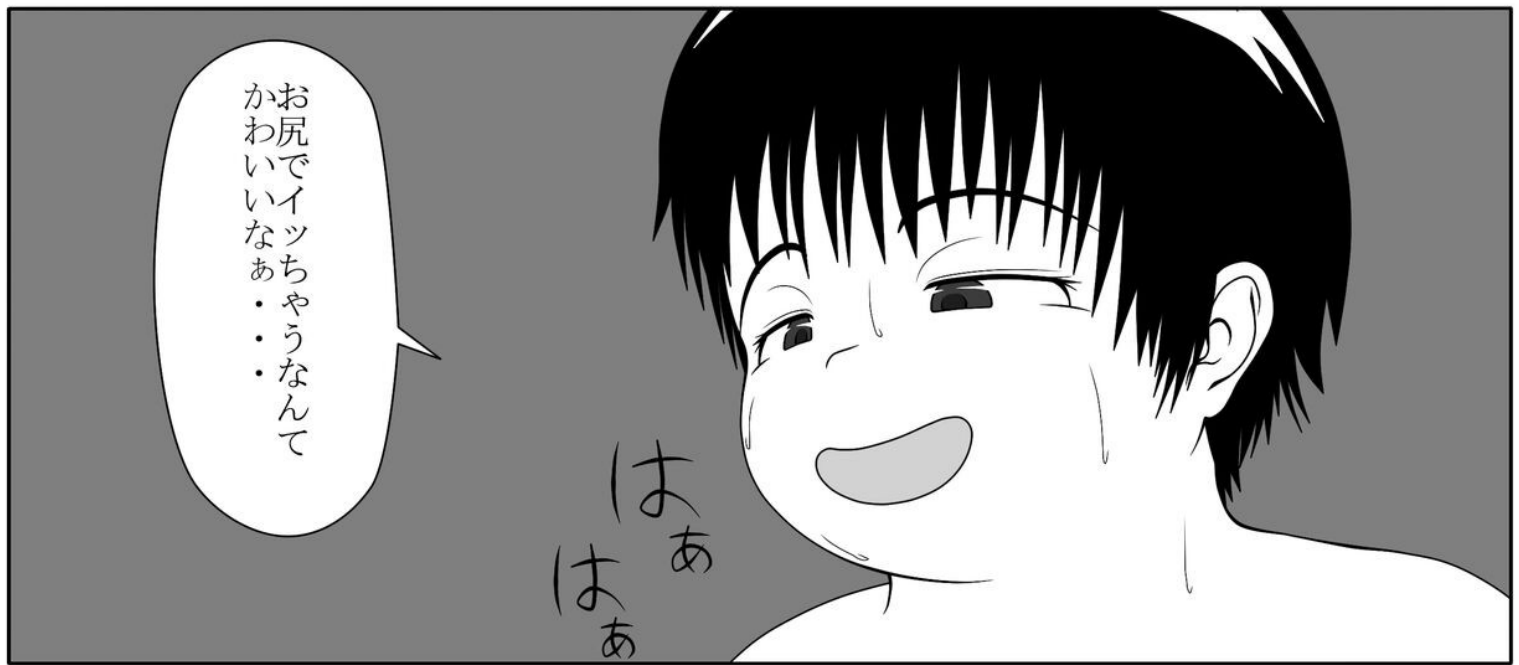
ぬぼっ

いっく!!

ぐふっ

あああああああああああああああ！





かわいい!!!



んひあ!

ずぽっ

ずぽっ

ピク
ピクン
ピク



あはあ
あああ
あああ
あああ
おしりいい
いくううう
お!

おおあ
あああ
あああ
!!

えへへ・・・

中出し・・・

男の子に・・・

へへへ・・・

ハア
ハア

ハア
ハア

ぬ。ぶ。つ。ぐ。ち。ゅ。つ。じ。ゅ。ぽ。つ。ぐ。ぽ。つ。

いくううう
うううう！

おしりでいくうう

うううううううう！

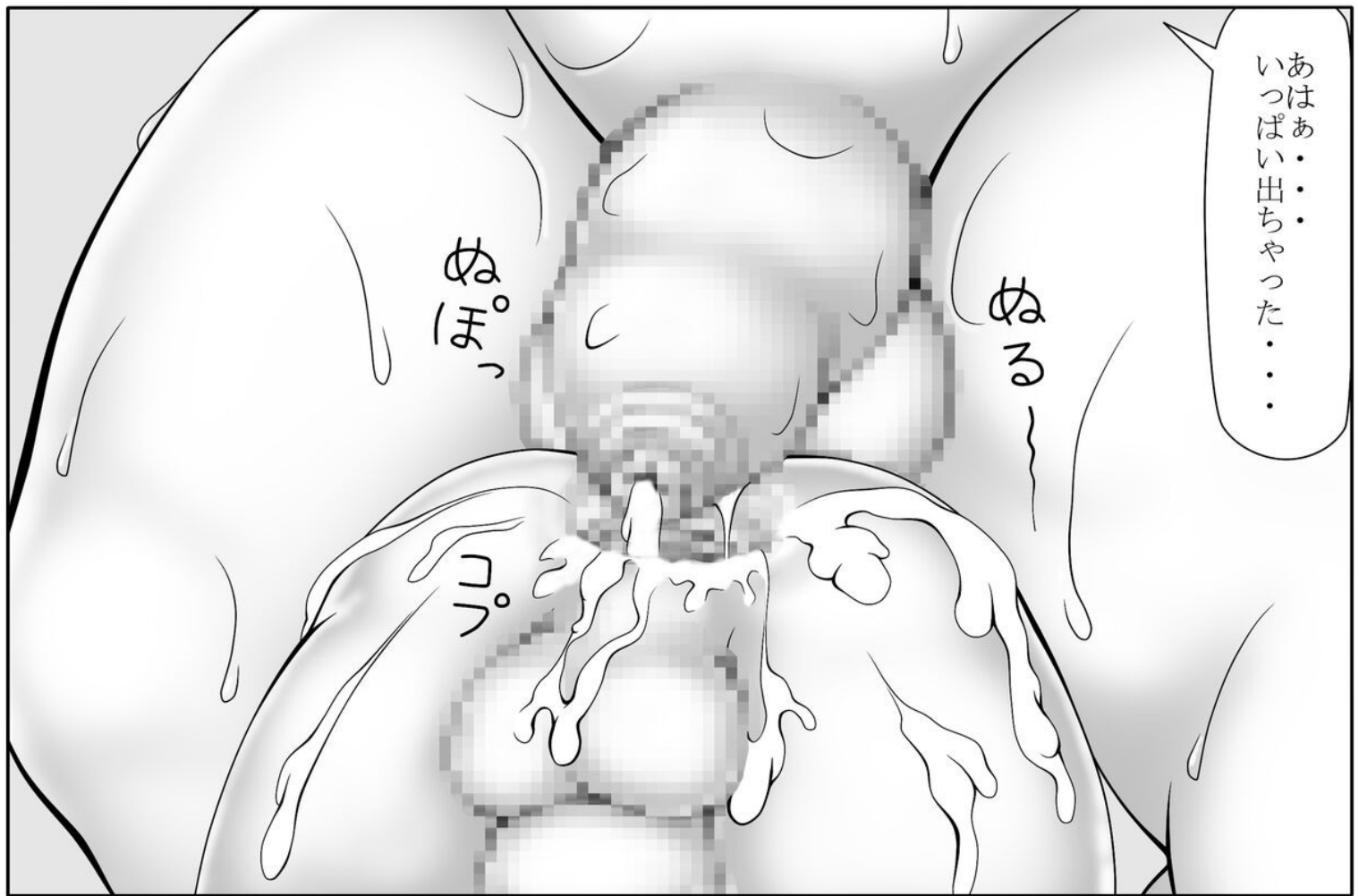
ビュッ

ビュルル

ビ
ザ
ラ
ル

ビュッ

ブ
ン
ダ



この出来事を
夢として処理し、
また日常を過ごした。

一週間後・・・
縁側で僕を待つ彼を見た。
やっとなら現実だと気付いた。

